

新学術領域研究「交替劇」A02班 2011年度第1回班会議・研究会

2011年6月4日(土) 13:00-18:00

神戸学院大学・有瀬キャンパス 11号館 7階 117F 演習室

参加者：寺嶋秀明、山上榮子、早木仁成、林 耕次（以上、神戸学院大学）、今村 薫（名古屋学院大学）、窪田幸子（神戸大学）、大村敬一（大阪大学）、木村大治、園田浩司、彭 宇潔(Peng Yujie)、シ・ゲンギン（以上、京都大学）、青木健一（東京大学）、赤澤 威（高知工科大学）。（以上 13名）

【研究発表①】

「ピグミー系狩猟採集民の身体装飾における学習と教示に関する考察」

彭 宇潔(Peng Yujie)（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

発表概要：アフリカ、カメルーン共和国の熱帯雨林地域で暮らすピグミー系狩猟採集民バカの身体装飾に関するバリエーションと、現在の様相について報告が行われた。事例ではとくに「刺青」が取り上げられ、それらが治療や祈願といった理由から施術される場合と、単におしゃれとして意識的に文様を施す場合があることを指摘した。また、刺青の施術を含めた子どもの身体装飾については、地域社会の独自性が色濃く反映されている可能性が示唆された。

【研究発表②】

「身体動作の習得における学習者・教示者のインタラクション—狩猟採集民バカ・ピグミーの子どもたちを対象に」

園田 浩司（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

発表の概要：カメルーン共和国に暮らすピグミー系狩猟採集民バカは、定住化政策以後、学校教育を含めた社会変化に対応しており、そうした環境下における子どもの生活実態について紹介された。子どもの日々の活動は、通常、年長・年少者で構成された複数で行われるものであり、その身体動作の習得には「模倣」と「教示」といった学習の場が創成されていると指摘した。事例として、銃を用いた狩猟の様子や動物の解体の様子が示された。今後の調査では参与観察や会話分析を通じて、学習者と教示者の相互行為についての分析を目指す。

研究発表総括：二人の発表者、彭（Peng）氏と園田氏は、今夏からの長期調査を控えた大学院生であり、質疑応答では事実関係の確認や今後の調査方法等に関わるコメントが相次いだ。彭氏の発表に関しては、狩猟採集民にみられる身体装飾の意義とその（文化的）背景との連続性について、今後の調査と研究において明らかにされることを期待したい。刺

青を含めた身体装飾は、世界各地の狩猟採集民を研究対象とする A02 班の班員それぞれのフィールドでも観察される事象であるが、それらを施術・実践する場面について「模倣」「学習」「教示」といった視点を伴うことで、ある種の人類の共通性を探るヒントに繋がるだろう。園田氏の発表に関しては、本発表ではあまり語られなかった身振りや体の動かし方といった身体動作についての事例を通じて、動きや行動の「模倣」がどのような学習や教示の場で実践されるのか引き続き追究してほしい。また、子どもたちの協働作業の中で内包する、「役割」や相互の関係性についても興味は尽きない。

総括班代表者の赤澤教授からのコメントに関連するが、現代の狩猟採集民にみられる実生活の行動を実証的に観察することで、どのような（人類に普遍的な）事象がみられるのか、そうした事例を A02 班の面々によって蓄積されることの重要性を参加者は再認識したであろう。

(以上、文責 林 耕次)

【班会議報告】

議題

0. 今年度の目標・課題
1. 2012 年「国際シンポジウム」
2. 12 月開催の第 4 回研究大会
3. A01 班との合同研究会
4. その他

0. 今年度の目標・課題

今年度の共通目標として、下記の項目に焦点をあてることとした。寺嶋が一通り説明し、次いで、フリーディスカッションで意見交換をおこなった。

- 1) 狩猟採集民における「社会学習と個体学習」の実態解明
 - ・「教えること」teaching、pedagogy
 - ・「模倣」observational learning、emulation
 - ・「創造的行為（創意・工夫・発見・発明）」creativity、ingenuity
 - ・「コミュニケーション」と「インタラクション」
- 2) 発達の各ステージにおける「学習と教示」の実態解明
 - ・乳幼児 親と子ども
 - ・子ども 子ども集団（遊び集団）
 - ・思春期 大人との接近

- ・成人後
- 3) 成長過程と個別的学習
 - ・道具と学習
 - ・身体と学習
 - ・アートと学習

1. 2012年「国際シンポジウム」

2012年11月18日(日)～23日(金)(場所・・・東京 or 京都?)に予定されている交替劇第1回国際シンポジウムに関して、テーマ、セッションの構成、招待者、発表者などについて議論した。以下に暫定的に決定されたタイトル、構成、プログラムを示す。

タイトル

“Learning behavior and its characteristics of modern hunter-gatherers”

構成・プログラム

- 1) Part 1 (午前、3時間)
 - イントロダクション&理論的展望
 - 個別発表1 ピグミー、ブッシュマンを中心とした発表
- 2) Part 2 (午後前半、2時間)
 - 個別発表2 アボリジニ、イヌイトを中心とした発表
- 3) Part 3 (午後後半、2時間)
 - 個別発表3 心理学、霊長類学からの発表
- 4) Part 3 (夕方、1時間)
 - 総合討論

2. 12月開催の交替劇第4回研究大会

2011年12月10日(土)～11日(日)に、自然科学研究機構・岡崎コンファレンスセンター(愛知県岡崎市)にて開催予定の、交替劇第4回研究大会における当班主催のセッションに関して、テーマ、構成、発表者などについて議論し、以下のような暫定的な結論をえた。

テーマ・・・「ヒトにおける個体学習と社会学習」

発表者と発表内容(暫定)

未定(A01)・・・「考古学から見た個体学習と社会学習」

大村(A02)・・・「文化人類学から見た個体学習と社会学習」

安藤(A02)・・・「教えること・教えられること-進化教育学から」

高田(A02)・・・「なぜ狩猟採集民は教えないのか」

未定(B01)・・・「集団遺伝学から見た個体学習と社会学習」

3. A01 班との合同研究会 「道具と学習行動（仮題）」

「道具と学習行動」というテーマで、A01、A02 の合同研究会を開く計画について議論した。道具づくり、道具使用と学習・教示に関するテーマに絞って、考古学と文化人類学・発達心理学との相互理解の深化と相互乗り入れの可能性を探るための研究会で、道具は物であればすべてOK、石器から弓、罌、食器、運搬具、衣類、小屋、化粧道具のたぐいまで視野に入れて考える。考古学の情報と人類学・心理学の情報をきっちりとかさねあわせる必要がある。

A01、A02 合同研究会を2回開催する。そのうち1回はA01 主催座談会、もう1回はA02 主催発表形式とする。発言者は各班3名程度、他はオブザーバーとする。

第1回は、9月、東京での開催。

第2回は、来年はじめ、関西での開催を予定する。

4. その他

(1) 「Children and Youth in a Changing World」国際会議

(International Union of Anthropological and Ethnological Sciences、2012 Inter-Congress) (KIIT University、Bhubaneswar、Orissa、India、November 26 (Mon) ~30 (Fri)、2012)

上記の国際会議が来年11月インドにおいて予定されているが、それへの参加などについて議論した。

(2) A02 班のホームページ、オープン近し！

作成中の交替劇 A02 班の広報用ホームページを近々オープンするので、さらにコンテンツを充実させることを議論した。

(以上、文責 寺嶋秀明)